

優秀実践校、図書館、団体の紹介

○四日市市立羽津中学校

(よっかいちしりつはづちゅうがっこう)

年間貸出冊数の目標を達成するために、学校全体の多読クラスを毎月記録している。また、本棚をかたどった掲示物を作成し、その時点での本の貸出冊数を視覚化している。

自分が読んだ本を400字程度でまとめ、学級内でスピーチを行う1分間スピーチの取組を行っている。

○津市立美杉中学校

(つしりつみすぎちゅうがっこう)

地域に伝わる民話・昔話を英語で動画や紙人形劇にする活動や、校外学習で訪れる場所に関連した図書の特設コーナーの設置等、学校図書館の活用の幅を広げている。

中庭に仮設の図書館を設置する「青空図書館」の取組を行っている。読みたい場所で本を読むことができ、普段図書室を利用しない生徒も含めて、全生徒が利用している。

○三重県立相可高等学校

(みえけんりつおうかこうとうがっこう)

普通科と専門学科を併設する学校の特色を生かし、それぞれの学科において積極的に学校図書館・司書を活用した授業に取組み、学校図書館・司書を活用した授業時間数を、令和4年度から令和5年度にかけて、80時間から188時間に増加させた。

防災学習や人権フィールドワークなどに図書委員会に関わり、図書館にある資料を使った学習や発表に関連付けることで、幅広い視点から校内の読書活動を推進している。

○亀山市立図書館

(かめやましりつとしょかん)

おはなしのひろばでのおはなし会の他、多目的室や文化情報プラザで、図書館ボランティアや行政、市民活動団体の協力を得て、さまざまなイベントを多数(令和5年度:110回程度)行っている。

学びの場を尊重しながら、人と人がつながれる空間をめざし、イベントをとおして、子どもたちと地域の人の交流の場を広げている。

○おはなし「銀の櫛」(四日市市)

(おはなし「ぎんのかい」)

図書館においての定期的なおはなし会や、小学校、幼稚園、保育園と連携しておはなし会を実施している。

幼稚園・保育園においては、子どもたちが絵に頼らない言葉だけのおはなしを楽しめるようになってきており、子どもの読書活動推進に寄与している。